

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	下條村『親田辛味大根』のブランド強化事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人元気だ下條 050-3583-0887
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,020,876 円 (うち支援金: 772,000円)

事業内容

- 栽培技術を確立して生産量を拡大する取り組みを実施
 - ・試験圃場の3カ所と村内栽培圃場10圃場の大根抜き取り調査実施
栽培環境、生育、病害の調査による比較
信州大学農学部との協力による辛味成分の含有量の比較
 - ・新たな栽培指針の作成と在来の種の採取の提案。
調査結果による栽培検討会開催
令和3年2月24日 村民センター 栽培者他12名参加
 - ・新たな栽培指針の配布
『親田辛味大根』栽培しよう！食べよう！説明会で配布を行った。
- 親田辛味大根ブランドの宣伝と栽培推進の取り組み
 - ・親田辛味大根秋作講習会及び栽培説明会開催
生産組合対象講習会: 令和2年7月28日 村民センター 11名参加
一般栽培希望者対象 : 令和2年8月7日 村民センター 19名参加
種子無料配布者数59名(後日配布含む)
 - ・消費拡大のためのチラシ作成 500枚
アンケート調査、説明会で配布
 - ・蕎麦屋アンケート調査実施
275店に発送 回答100件
 - ・『親田辛味大根』栽培しよう！食べよう！説明会開催
令和3年3月20日 コスモホール 29名参加(主催者4名含む)
提案: 村内で『栽培しよう！食べよう』を提案
講演: お親田辛味大根の辛さと品種の保存(講演者: 信大農学部 根本助教)
信州伝統野菜の制度と認定状況(講演者: 信大農学部 松島助教)



【試験圃場の様子】



【『親田辛味大根』栽培しよう！食べよう！説明会の様子】

【目標・ねらい】

- ①生産量の増加と品質の向上
- ②栽培者や利用者の拡大
- ③親田辛味大根ブランド強化と啓発
- ④村の財産『親田辛味大根』の伝承の継続

※自己評価【A】

【理由】

- ・アンケート調査の結果で、この事業の必要性が感じられた。
- ・旧来の栽培方法を現在の環境に適した栽培方法に変えられた。
- ・コロナ禍での販売環境の中でありながら、多くの蕎麦屋さんからの要望が聞けた。
- ・販売農家の増加には至っていないが家庭菜園での栽培が増えた。

事業効果

- ①栽培調査により、適期栽培や最適な栽培条件を探し出して、栽培者に知らせることができた。このことで、旧来伝えられて実行されてきた栽培方法の見直しができ、廃棄されてきた格外品の削減につながる。次年度以降の栽培方法を変えることができた。
- ②栽培講習会や説明会の開催で、村民に働きかけを行い、販売目的以外にも、自家消費を目的とする栽培者を増やすことができた。
- ③アンケート調査では多くの蕎麦店で『親田辛味大根』の高い評価と店舗用の要望が多くあり、ブランド強化のための対策の必要性を実感することができた。このことを、村民に伝え、栽培や販売、村内利用の推進のきっかけとなった。
- ④説明会で行われた信州大学農学部の先生の講演で、信州の伝統野菜『親田辛味大根』の伝承で、品種を維持してゆくには何が必要かを村民に知ってもらうきっかけとなった。

今後の取り組み

親田辛味大根の栽培者を増やす中で、販売を目的とした生産者を増やすことは重要課題であり、その対策を今後も継続してゆく。その中では、安定した生産量が確保できる栽培技術を見つけて伝えることが重要で、栽培試験を継続する。次年度も信州大学農学部との協力により、本年度の栽培の検証を行い試験をして、栽培技術を補完する。

また、親田辛味大根は高い評価と需要の要望が多くある。それに応るため村と協力して『親田辛味大根』の販売を支援する。支援策として生産者と実需者との結びつきを強くするための交流会を開催する。

ブランドの推進活動では、村内の『親田辛味大根』の啓発活動として、農地所有者以外の村民の皆様にプランター栽培を勧める。

。今後は村のブランド強化の一環として村内産そばとのコラボレーションによるブランド強化を図る。